

I 目指す学校像

児童一人一人が自立し、それぞれが幸福を追求し続ける力を育成する。その基礎力と追求力の育成に向け、全教育活動を通して取り組む。その実現に向け、保護者・地域、外部機関と連携・協働し、組織一丸となって本質を追求する学校を創造する。

(1) 明るく健康な子「七転び八起きの挑戦力」

(2) よく考え 進んで学ぶ子「仲間とともに探求する力」

(3) 豊かな心と思いやりのある子「自他を大切にする力」

II 中期的な目標と方策『常に次の山「ハレ舞台」を目指し挑戦する教育』

一人一人の可能性を強く信じ、仲間、教師とともに探求し、「日々成長」する喜びを実感する教育。「七転び八起きの挑戦力」で、失敗を糧とし挑戦し続け、お互いの成長を喜び合える教育。不易を大切にし、流行と融合し、脱前年踏襲で「本質追求」へ。保護者・地域を「応援団」とし、檜原の自然を生かし、地域との連携力を生かした「NARAHARA WAY (サポーターズ)」を推進。座学でもハレ舞台を大切にし、児童と教職員が一丸となって挑戦し続けていく。

1 「全員追求の授業」の創造

座学の「ハレ舞台」を児童と共有し、校内外研究に取り組む

- ・スポーツと同じく「構え」のある座学（主体性・聴取性・表明性）
- ・教材研究を越えた「教材解釈」で学習内容が明確な授業準備
- ・学級の集中は「課題」の成否が要
- ・思考が人をつくる。母国語は思考の要。教育活動全体で自覚的な「言葉の追求」

2 「日々成長」のある学校

「価値付け」たことが自覚され、文化となる。家で「今日ね、学校でね…」となる学校へ

3 他（教師・仲間・教材）との関わりの中で学び合える学校

教え込みや一問一答を乗り越え、他との関わりを通して「追求する力」を高めあう

4 「地域とともにある学校」 檜原小へ

保護者、地域は「学校の応援団」。NARAHARA サポーターズによる「人を浴びる」教育

5 安心・安全と信頼のある学校

成功の秘訣は想像力と段取が8割。安全面でも「何も起きなかった」は危機管理の成果

III 今年度の取組目標と方策

「形式的な取組」を見直し、「本質的な取組」を中心とした学校教育へ。

1 自覚的な「学びの構え」づくり。号令や命令でなく、次の行動を自覚させた取組

【授業や集会、行事で育成を図っていく。QUテストにおける80%以上の肯定評価へ】

2 本質的な学力の向上（グライダー型人間から、自立走行できる飛行機型人間への育成）

小4段階を確実に越えさせる。「現実には常に公式をはみだす」新たな公式の追求へ

【はちおうじっ子ミニマム 2回目での習得率向上と、その後の繰り返し習得へ】

3 豊かな心の育成（公共力を育成し、共生社会人へ）

正すべき時は「ならぬことはならぬ」の精神。相手の心が心に染み入る高次情動の育成
気になることは先手を打って、即日対応。ハウレンソウで重大化防止。

自らの成長に他者の存在が必要なことを実感させ、自他を大切に感謝へとつながる教育
【未然防止及び組織的な早期対応に努め、いじめの重大案件ゼロへ】

4 体力・運動能力の向上（生涯体育への目覚め）

遊びを含む体力向上推進。走力・柔軟性の育成。「できた！」を味わう授業づくり
【体力調査における走力、柔軟性のスコアを前年度越えへ】

5 健康・安全に対する意識の向上（より実践的な非常時危機対応訓練へ）

防災、防疫「命を守る構え」の育成。実践的訓練で失敗から学び、対応力を強化
【「非常時危機対応訓練」として、教職員へも予告なし非常時危機対応訓練を年間を通して実施】

6 特色ある教育活動の推進（重点）

一人一人の自立に向けた『追求力』を育成する『NARAHARA プレミアム』を推進。

- ① 「追求のNARAHARA」(外部にも開かれた研究を推進。座学のハレ舞台で磨きをかける)
【国語科の物語文を中核にした「追求の授業」による授業改善を校外にも開いて研究推進】
- ② 「NARAHARA サポートーズ」(地域連携力を武器に「本物体験」「人を浴びる教育」)
【積極的に地域講師等と連携し、学校評価における80%以上の肯定評価へ】
- ③ 「NARAHARA 未来会議」(児童自身の主体的学校づくり・教職員の働き方改革)
【委員会を核とした主体的取組の場・児童が校長と語る会・校務改善委員会の実施】
- ④ 「NARAHARA GLOBAL GATEWAY」(CLILL 教育・NGG 留学生企画)
【留学生の活用と縦割り活動を活用したCLILL教育の推進】
- ⑤ 「NARAHARA 危機対応」(想定外をつくらずトライ＆エラーによる危機対応力)
【具体的な危機対応訓練を実施し、自助・共助を実現する「危機対応」訓練の実施】
- ⑥ 「NARAHARA スポーツ」(系統的指導と地域、連携大学と協同での体力向上策)
【日常的にスポーツを楽しむ機会をつくり、生涯スポーツへとつながる取組の実施】
- ⑦ 「NARAHARA 食楽」(毎日食育、自覚的に味わい、体づくり。ハレメニュー)
【「バースデーカレー」「ならはら力飯」や菜園食材の活用、食育メモの充実等を実施】
- ⑧ 「ナラクルーシブ」(せせらぎ教室の専門性、学校サポーター、別室登校、外部機関をコーディネート)
【個々の困り感に応じた居場所づくりの推進。登校渋り等に寄り添い、状況改善へ】

児童の「自立」に向け、教育活動全体を本質的で追求的なものへ。事務的な取組であっても、その裏に一貫して我々がもつ「方向性」があるかどうか分かれ目。思想の伝わる投げかけ、見取り、評価が学級に本質的な文化を創り出す。

檜原小6年目は特色ある教育活動「NARAHARA プレミアム」。内容を咀嚼し、それぞれに自主的、創造的な運営へ。教育は人なり。失敗も歓迎、創造的な取組を。

7 地域から応援される学校に向けたキーワード

「損して得取れ」「理屈より関係」「論破より傾聴」「批判ではなく提案」「人は鏡写し」
真に相手を想った関わりでピンチも活かし「自分のファン」「熱烈な応援団」

児童も教職委も保護者も地域も並走し、一歩ずつ前進する檜原小学校 ※ 【】 は目標値